事業実施報告

クロージングイベント「受け継ぎ、歩む 南アルプスフェスタ 2014」

日時　平成 26 年 10 月 4 日（土）13:00 ～ 17:00（櫛形生涯学習センター）
平成 26 年 10 月 11 日（土）8:00 ～ 15:30（広河原園地）

場所　櫛形生涯学習センター　山梨県南アルプス市小笠原 1060 － 1
広河原園地　山梨県南アルプス市芦安芦倉字野呂川入 1685 番地

イベント概要

南アルプス国立公園 50周年記念事業の総括として、実施した 3 事業の内容を集約するとともに、その成果を次周期へ引き継ぐため、南アルプス国立公園指定 50周年事業のフィナーレとなるクロージングイベント「受け継ぎ歩む南アルプスフェスタ 2014」を開催しました。

クロージングイベント開会式

10 月 4 日（土）は南アルプス市内の櫛形生涯学習センターでの室内イベントを開催し、国立公園に親しみを持ってもらう事業を行い 250 人程が来場しました。10 月 5 日（日）は記念登山、広河原園地でのイベントを予定してましたが、台風接近のため記念登山は中止、広河原園地でのイベントは 10 月 11 日（土）に延期しました。

クロージングイベント“中込 南アルプス市長挨拶”

実施概要

10 月 4 日（土）櫛形生涯学習センターでの室内イベント

①南アルプス国立公園シンボルマーク表彰式

南アルプス国立公園指定 50周年記念事業実行委員会では、南

クロージングイベント“横内 山梨県知事歓迎の言葉”

シンボルマーク表彰式“上杉 関東地方環境事務所長主旨説明”

シンボルマーク表彰式“最優秀賞授与”

櫛形生涯学習センター 受付

日本アルプスサミット

アルプス国立公園が指定50周年を迎えることを記念して、より多くの人々に親しみを持ってもらうためシンボルマークを制定することとしました。一般公募による応募総数333作品の中から、南アルプス国立公園のシンボルマークを決定しました。

本事業では、シンボルマークの発表と最優秀賞の中島厚氏（群馬県高崎市在住）に表彰を行いました。また、地元の中学生の作品を奨励賞とし、笹本明日美氏（南アルプス市在住）の表彰を行いました。

②トークイベント　日本アルプスサミット
山が人を創る ～登山の歴史を支えた人々～

国立公園の目的のひとつである適正利用にスポットを当て、登山の歴史を振り返りながら、南北中央アルプスの第一線で活躍しているガイド、山小屋関係者ら6人にこれからの登山について考える場としてトークイベントを行いました。パネラーは、清水准一氏（南アルプスガイドクラブ）、上野真一郎氏（NPO法人静岡山岳自然ガイド協会）、穂苅康治氏（槍ヶ岳山荘主人）、羽場崎功氏（アルプスネイチャークラブ）、神谷有二氏（山と溪谷社）、コーディネーターは塩沢久仙氏（芦安山岳館館長）。かつて山の案内人は道案内や食事の世話、安全管理などの多くの役割を担っていた。現在では道標や山小屋にその役割が変わっている部分もある。その中でガイドがどんな役割を担うのか、安全性の管理以外にも山の自然や歴史を解説することで、登山者により深い体験を提供することが重要ではないかなどの討論が行われました。最終的には次周期に向けて、先人たちが残してくれた貴重な山岳自然環境や文化を大切にし、地域、山小屋、登山者、行政がそれぞれの役割を果たしながら本事業を契機に改めて考え、100年後の子供たちに誇れるように「受け継ぎ歩む」私達でありたいという結論にまとめられました。

③南アルプス市立芦安中学校の生徒による未来への提言

南アルプス国立公園の未来への提言を、学校登山や環境教育に積極的に取り組んでいる南アルプス市立芦安中学校の生徒３名が行いました。発表者は２年生の林優花さん、倉園光太郎さん、田部かれんさん。発表の内容は芦安中学校の学校林の整備や登山道のパトロールなどの環境教育の取組みの紹介、９月に行った北岳学校登山について実体験に基づいた感想文を写真スライドとともに紹介しました。未来への提言は実行委員会として本事業の総括として未来へ託す内容を読み上げました。

④ロビー展示

・山岳写真展

長野、静岡事業でリレー展示している日本山岳写真協会の作品約 30 点の展示を 10 月 1 日～ 10 月 29 日の期間で行いました。迫力のある山岳写真に見入る来場者が多くいらっしゃいました。

・シンボルマーク応募作品

今年６月から募集を行ったシンボルマーク応募作品 333 点の展示を行いました。

・南アルプス国立公園指定50周年記念パネル

南アルプス国立公園の紹介と歩みをパネルで紹介し、国立公園について知ってもらうきっかけとしました。

・ESD 紹介パネル

平成 26 年 11 月に行われた ESD に関するユネスコ世界会議に向けて、ESD の普及を目的としたパネルの展示を行いました（環境省からの依頼）。

・南アルプスかるた

本会静岡事業「こどもフォーラム」の際に製作した南アルプスかるたの展示を行いました。南アルプスのことがわかりやすく説明されていると好評でした。

・各県市町村パンフレット

３県 10 市町村のパンフレットの配布を行いました。登山だけではなく山麓の情報があると観光でも楽しめると好評でした。

・ハンズオン展示

南アルプスの生きものを紹介するためにカモシカのぬいぐるみの展示を行い、来場者に触れてもらったり解説を行いました。

・スタンプラリー

「南アルプスまるごと体験！スタンプラリー」のスタンプを設置しました。

⑤その他

・シンボルマークの決定を記念して来場者に記念バッチを配布しました。

・サントリー食品インターナショナル株式会社の協賛により提供された 550ml ペット飲料（南アルプスの天然水、南アルプスの天然水＆朝摘みオレンジ）を各 300 本（計 600 本）来場者に無料配布しました。

クロージングイベント“辻 早川町長閉会挨拶”

野呂川広河原イベント会場

自然観察会

広河原園地“シカ肉試食の様子”

広河原園地“シカ肉料理”

10月11日（土）広河原園地でのイベント

全体の事業の中で唯一の国立公園内のイベントを実施。実際に南アルプスの自然を体験してもらうことを通して国立公園の魅力を感じてもらうことを狙いました。また、登山だけではない南アルプスの楽しみ方の提案として自然観察会の実施や山小屋でのシカ肉試食会などを企画しました。協賛として山梨交通からハンドタオル200枚が提供があり、イベント参加者に記念品として配布しました。また、南アルプス世界自然遺産登録山梨県連絡協議会から自然観察会申込者にバス乗車無料券を配布しました。

①ネイチャーガイドによる自然観察会

広河原園地のカツラの大木の森をネイチャーガイドが案内する自然観察会を行いました。

1時間30分のガイド時間で5回実施し、参加者数は大人42名、子供7名、幼児1名の50名でした。参加者からは自然の仕組みについてわかりやすかったなどの感想が寄せられました。

②シカ肉試食コーナー

南アルプスで植生に影響を与えているシカについて知ってもらうことと、シカ肉の活用について理解してもらうために、早川町で狩猟されたシカ肉を使ったカツサンドとロースト、から揚げなどを150食提供しました。南アルプス山麓の大鹿村や早川町などで行われているジビエについての説明や、シカ肉についての解説パネルも展示しました。試食した人からは、思ったよりも香りが気にならない、ローストはやわらかくておいしいなどの感想がありました。

③クイズラリー

会場をめぐって問題に答えるクイズラリーを実施しました。動物や鳥類についての50名ほどの参加がありました。身近な動物だが意外と知られていない生態についての知ることができた、ゲーム感覚で楽しめたいう感想がありました。

クイズラリー

④生きもの紹介コーナー

南アルプスに生息する哺乳類の毛皮や骨を展示しました。インタープリターによる歯の形と食べ物の関係やカモシカやニホンジカの角の違いなどの解説を行い、実際に動物の毛皮の触感の違いなどを体験してもらうことで生きものの特徴を知ってもらうきっかけとしました。

生きもの紹介コーナー

⑤野呂川広河原インフォメーションセンター内展示

南アルプス国立公園パネル、南アルプスかるたの展示を行い、国立公園についての理解を深める普及活動を行いました。

インフォメーションセンター“南アルプス国立公園パネル展示”

⑥関係機関PRコーナー

関係機関、各市町村のポスターやパンフレットの展示、配布を行いました。下山した登山者からは山麓の情報が下山時にもらえるとありがたい、登山に行けないときに周辺の市町村の観光をしてみたいとの意見がありました。

インフォメーションセンター“南アルプスかるた展示”

受け継ぎ歩む南アルプス　“未来への提言”

南アルプス国立公園の未来への提言を、学校登山や環境教育に積極的に取り組んでいる南アルプス市立芦安中学校の生徒３名が行いました。その中から、田部かれんさんが発表した“未来への提言”をご紹介します。

どっしりとした3,000ｍの山々が連なる南アルプス。緑の山岳地帯と呼ばれる豊かな森が育まれる南アルプス。私たちはその大いなる南アルプスのふもとで暮らしています。

奥山である南アルプスは古くから人々によって大切に守られてきました。

山を守ること、それはすなわち自分たちの生活を守ることになるからです。

先人は誰も近づいてはならない聖域として奥山を守り、多くの恵みを受けていました。それは水であったり、食糧であったり、資材であったり、人々は神に与えられたものとして大切に扱ってきました。彼らは「生きる」ために必要な分だけを受け取り、多くのものを欲しませんでした。そして山の神々に感謝の気持ちを伝えてきたのです。彼らの生活は決して裕福ではありませんでしたが、季節感にあふれた

“芦安中学校の取組み”を紹介する林　優花さん

豊かな日常がありました。そこで人々は誰にも教わることのない「生きる力」を自然から学び受け継いできたのです。

やがて時代は移り変わり、私たちは次第に山から遠ざかる暮らしをするようになりました。

今、南アルプスではさまざまな問題が起きています。ニホンジカが高山へ侵出し、高山植物を食べてしまったり、氷河期の生き残りといわれるライチョウが減少するなど今まで考えられなかったできごとが南アルプスの自然をむしばんでいます。

なぜ、このようなことが今起きているのか、私たちは真剣に考えていかなければならない時代がやってきたと思います。

昭和39年6月1日。南アルプス国立公園が誕生しました。

今年で50歳を迎えた記念すべき1年に、南アルプスはユネスコの生物圏保存地域、ユネスコエコパークに登録されました。ユネスコエコパークは自然と人間の共生を地域で実践する取組みです。自然と人とのいい関係をどう創るべきか、南アルプスは国際的にも今後ますます注目されていくことでしょう。

そのために私たち南アルプス国立公園に関係する地域の住民やそこに関わる人たちみんなが同じ想い

“学校登山”を紹介する倉園　光太郎さん

と実行力でこれらの問題を克服していかなければなりません。

Let’s climb together with love and smile.
今年の北岳全校登山の私たちのテーマでした。

「愛と笑顔を胸に」、南アルプスの山に登り、山からは思いやり、たくましさ、勇気を教えられ、生きる力をはぐくむことができました。山は人を創り、自然をいつくしむ優しい心をはぐくむふるさとのだいじな財産です。ふるさとの山は、豊かな心、豊かな日常が生まれる場所であって欲しいと思います。

暮らしや街の風景が変わっても南アルプスの山々はずっとここにあり続けます。この先何十年も何百年もの未来の人たちに変わらない南アルプスの自然を届けたい。それは私たちと未来との「約束」なのです。

「自然の恩恵を活かした豊かな地域へ。」南アルプスの山々と共に未来を歩んでいきます。
私たちは南アルプスの自然を受け継ぎ、次の100年目に届けることをここに誓います。

南アルプス市立芦安中学校

“未来へ提言” 田部　かれんさん

事業実施報告

南アルプス国立公園シンボルマーク

南アルプス国立公園指定 50 周年記念事業実行委員会では、南アルプス国立公園が指定 50 周年を迎えることを記念して、より多くの人々に親しみをもっていただくため、シンボルマークを制定することとしました。今年６月から公募を行い、平成 26 年 10 月４日の記念イベント「受け継ぎ、歩む南アルプスフェスタ 2014」において、受賞作品を発表しました。

応募総数 333 作品の中から、最優秀賞１点と優秀賞２点が選ばれ、米山選定委員と田辺実行委員会長より賞状を授与しました。また、地元小中学生の作品２点が奨励賞となりました。

最優秀賞となった作品からは、南アルプス国立公園シンボルマークのデザインマニュアルを作成しました。今後は、マニュアルとあわせて作成した使用規程に基づいて、パンフレットや地図、標識などに活用し、この地域の優れた自然風景の保護と適正な利用に向けた理解の促進を図っていきます。

【選定の経緯】

募集期間　平成 26 年６月１日（日）～　平成 26 年７月 22 日（火）
応募総数　作品数：333 点、応募者数：262 名

一次審査（平成 26 年７月 25 日 [金] ～　平成 26 年８月８日 [金]）

南アルプス国立公園指定 50 周年記念事業実行委員会幹事による１次審査
（通過：55 点）

二次審査（平成 26 年９月３日 [水]）

選定委員６名及び南アルプス国立公園指定 50 周年記念事業実行委員による選定委員会
（最優秀賞１点、優秀賞２点、次点７点及び奨励賞）

選定委員

向山富士雄（山梨県立美術館学芸課課長・選定委員長）
塩沢　久仙（芦安山岳館館長・選定副委員長）
米山喜美人（山梨デザイン協会代表理事）
土屋　修三（長野県デザイン振興協会副会長）
増澤　武弘（静岡大学理学部特任教授）
坂本　正夫（飯田市美術博物館専門研究員 [地質担当]）

■ 南アルプス国立公園シンボルマーク 受賞作品

南アルプス国立公園指定50周年記念事業実行委員会では、南アルプス国立公園が指定50周年を迎えることを記念して、より多くの人々に親しみをもっていただくため、シンボルマークを制定することとしました。
今年６月から公募を行い、応募総数333作品の中から、南アルプス国立公園のシンボルマークを決定しました。

■最優秀賞

中島　厚 様（群馬県高崎市）

南の「M」とアルプスの「A」という頭文字を組み合わせた
力強い山々と清流で南アルプスを表現し、
美しい自然に恵まれた南アルプス国立公園を象徴しています。
山々を形づくる三つの三角形は「山梨、長野、静岡」の三県を、
楕円は地域の交流・融和、自然との協調を意味します。

■優秀賞

小池 友基 様（群馬県高崎市）

南アルプスの山々、豊かな自然（葉）、南アルプスを源流とする川の流れをデザインしました。

宮崎 信行 様（東京都三鷹市）

南アルプスの希少な動植物（ライチョウ、キタダケソウ）と山容（北岳～仙丈ヶ岳）をモチーフに図案化しました。

米泉 弘人 様（石川県金沢市）

青空に映える山並みを遠景に、キタダケソウ＆ニホンカモシカを近景に配することで、生態系及び緑豊かで雄大なスケール感を表現しました。

■奨励賞

これからも南アルプスを愛し、未来に受け継いでほしいという気持ちを込め、地元小中学生の作品に対して実行委員会から贈られた賞です。

笹本 明日美 様
（山梨県南アルプス市）

橋本　凛 様
（長野県伊那市）

応募作品紹介

南アルプス国立公園
Minami-Alps National Park
Southern Alps
国立公園50周年
MINAMI-ALPS NATIONAL PARK
Minami Alps National Park
MINAMI ALPS
南アルプス国立公園
Southern Alps
50th
MINAMI ALPS
Southern Alps National Parks of Japan
50th
50th
MINAMIALPS NASYONALPARK
Minami Alps National Park

MINAMI ALPS
南アルプス国立公園
50th MINAMIALPS
L&P
世界に届け！
南アルプス
50th
MINAMIALPS

応募作品紹介

MinamiALPS
南アルプス
Minami Alps National Parks
MINAMI ALPS NATIONAL PARKS
South Alps
南アルプス国立公園
MANP
Minami Alps
Minami Alps
MANP
MANP
国立公園
国立公園
南アルプス国立公園
MINAMI ALPS
南アルプス国立公園
南アルプス国立公園
南アルプス国立公園

記念事業実施結果 ● 南アルプス国立公園シンボルマーク

事業実施報告

南アルプス まるごと体験！ スタンプラリー

南アルプスに来てもらい、自然・歴史・文化を体験してもらうきっかけづくりとして、４月 29 日（火・祝）の新宿御苑みどりフェスタから 11 月 25 日（火）の間に、南アルプスの登山小屋 40 軒や温泉・道の駅など情報収集ができる周辺施設など 23 箇所、４つの記念イベントの会場の計 67 箇所にスタンプを設置し、スタンプラリーを実施しました。

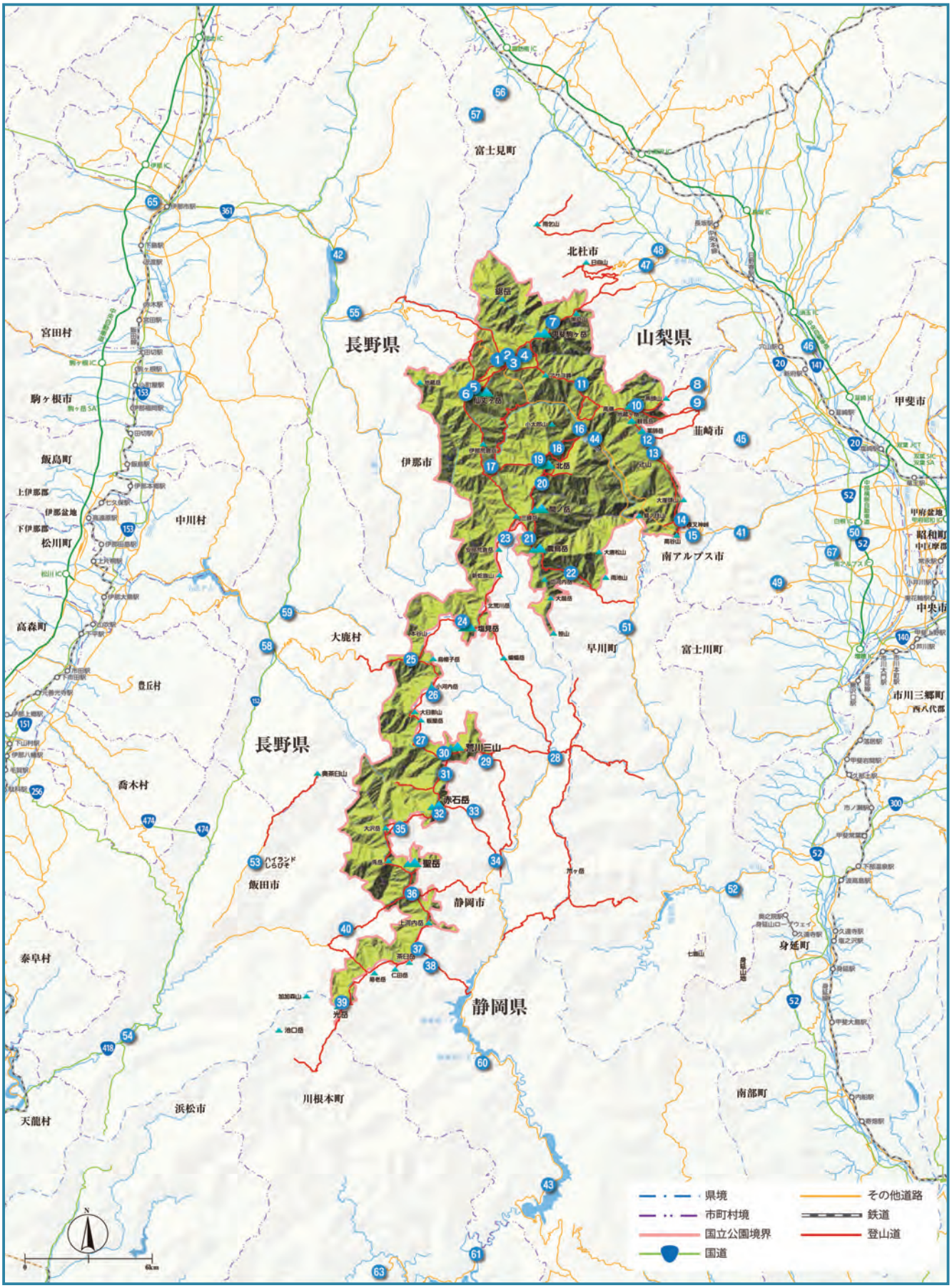
結果、南アルプスの施設や記念イベントを巡り、スタンプを６個集めて応募してくれた方は合計 505 名。実行委員会で作成した南アルプス国立公園シンボルマークのピンバッチは漏れなく、南アルプスかるたの他、関係市町村やその他関係機関提供の景品 16 種、計約 500 点の景品を抽選でプレゼントしました。

スタンプ設置箇所（山小屋、施設、イベント）

❶大平山荘、❷北沢峠 こもれび山荘（旧長衛荘）、❸長衛小屋（旧北沢駒仙小屋）、❹仙水小屋、❺馬の背ヒュッテ、❻仙丈小屋、❼駒ヶ岳七丈小屋、❽御座石鉱泉、❾青木鉱泉、❿鳳凰小屋、⓫早川尾根小屋、⓬薬師岳小屋、⓭南御室小屋、⓮夜叉神峠小屋、⓯夜叉神ノ森、⓰広河原山荘、⓱両俣小屋、⓲白根御池小屋、⓳北岳肩ノ小屋、⓴北岳山荘、㉑農鳥小屋、㉒大門沢小屋、㉓熊の平小屋、㉔塩見小屋、㉕三伏峠小屋、㉖小河内岳避難小屋、㉗高山裏避難小屋、㉘二軒小屋ロッヂ、㉙千枚小屋、㉚荒川中岳避難小屋、㉛荒川小屋、㉜赤石岳避難小屋、㉝赤石小屋、㉞椹島ロッヂ、㉟ 百間洞山の家、㊱聖平小屋、㊲茶臼小屋、㊳横窪沢小屋、㊴光岳小屋、㊵聖光小屋、㊶芦安山岳館、㊷南アルプス長谷ビジターセンター、㊸南アルプス･井川観光会館、㊹ 野呂川広河原インフォメーションセンター、㊺甘利山グリーンロッジ、㊻道の駅 にらさき、㊼白州・尾白の森名水公園 べるが、㊽道の駅 はくしゅう、㊾櫛形山森林科学館、㊿道の駅 しらね、(51)奈良田の里、(52)南アルプスプラザ、(53)ハイランドしらびそ、(54)アンバマイ館、(55)南アルプス林道バス、(56)富士見パノラマリゾート、(57)入笠湿原・山彦荘、(58)大鹿村観光協会、(59)塩の里展示室、(60)南アルプス赤石温泉白樺荘、(61)資料館やまびこ、(62)フォーレなかかわね茶茗舘、(63)南アルプス山岳図書館、(64)新宿御苑「みどりフェスタ会場内ＰＲ事業」、(65)長野県「南アルプス国立公園指定 50 周年記念式典」、(66)静岡県「南アルプスこども未来フォーラム」、(67)山梨県「受け継ぎ、歩む南アルプスフェスタ 2014」

景品（18種）【提供者（12 者）】

南アルプス国立公園シンボルマークピンバッチ、南アルプスかるた【実行委員会】、椹島ロッヂ宿泊券（１泊２食）４名様分【特種東海フォレスト】、楽曲「山恋しくて鳳凰三山」ＣＤ、エコパーク登録記念フェイスタオル【韮崎市】、北岳タオル＆ブルーベリージャム＆アカシア蜂蜜、南アルプス花の本３冊セット、スモモサイダー６本セット【南アルプス市】、武川米（１ｋｇ）【北杜市】、南アルプス国立公園指定 50 周年記念　マグカップ【飯田市（(株)上村振興公社にて作成)】、南アルプス国立公園５枚組ポスター【伊那市観光協会】、バンダナ【伊那市観光株式会社】、パノラマリゾート　グリーンシーズンゴンドラリフト優待券【富士見パノラマリゾート】、富士見町オリジナルトマトジュース「風立ちぬ」【富士見町】、大鹿村ピンバッチ【大鹿村】、南アルプスレリーフマップ（立体地図）、井川観光協会　民宿宿泊券（２名様）、さくらももこデザイン　アルミジョグボトル【静岡市】


富士見町
北杜市
山梨県
長野県
宮田村
駒ヶ根市
飯島町
上伊那郡
伊那盆地
下伊那郡
松川町
中川村
伊那市
韮崎市
甲斐市
甲府盆地
昭和町
中巨摩郡
南アルプス市
中央市
高森町
大鹿村
早川町
富士川町
市川三郷町
西八代郡
豊丘村
喬木村
長野県
荒川三山
赤石岳
聖岳
飯田市
静岡市
泰阜村
静岡県
身延町
南部町
川根本町
浜松市
天龍村
県境
市町村境
国立公園境界
国道
その他道路
鉄道
登山道

南アルプスまるごと体験！スタンプラリー

スタンプ一覧

50th anniversary
2014.06.01
南アルプス国立公園
指定50周年

大平山荘

北沢峠 こもれび山荘

長衛小屋

仙水小屋

馬の背ヒュッテ

仙丈小屋

駒ヶ岳七丈小屋

御座石鉱泉

青木鉱泉

鳳凰小屋

早川尾根小屋

薬師岳小屋

南御室小屋

夜叉神峠小屋

夜叉神ノ森

広河原山荘

両俣小屋

白根御池小屋

北岳肩ノ小屋

北岳山荘

農鳥小屋

大門沢小屋

熊の平小屋

塩見小屋

三伏峠小屋

小河内岳避難小屋

高山裏避難小屋

二軒小屋ロッヂ

千枚小屋

荒川中岳避難小屋

スタンプのイラストは南アルプスに関連する動物や植物、山をモチーフに描かれています。

―――――― デザインは、捧剛太、中村仁、中村知里 ――――――

実行委員会により作成されたスタンプは、スタンプラリー後も南アルプス関連施設に
統一デザインスタンプとして置いておくことにしました。

事業実施報告

広報活動について

記念事業の目的の一つ、南アルプスの素晴らしさを広く情報発信するため、広報計画に沿ってパンフレット、リーフレット、ポスター、缶バッチ、パネル、ホームページ、記者発表資料を作成・活用して広報活動に取り組んだ他、雑誌等への掲載依頼を行い、情報提供をしました。

パンフレット、リーフレット、ポスターなど

以下を作成し、各イベント会場や環境省・３県 10 市町村の関連施設の他、登山用品店、駅、道の駅、バス乗り場、温泉施設、公共施設、全国国立公園のビジターセンター、上高地周辺等登山者等が集まる場所、協賛企業施設　などで配布することで記念事業等の周知を行いました。

パンフレット・イベントガイド等の提供

「南アルプス国立公園（パンフレット）」

掲載内容は、南アルプス国立公園の紹介、地図、ルールやマナー、アクセスなど。より多くの人々に「南アルプス国立公園」に対する関心や親しみをもっていただくために今後も環境省で更新、増刷して活用するパンフレットを記念事業の一環として作成しました（Ｂ５版 28 ページ両面カラー中綴じ 7,000 部）。

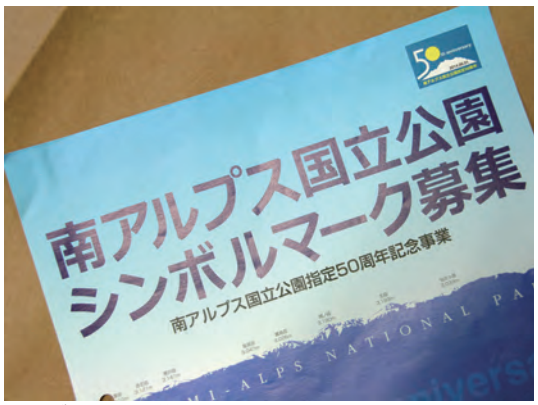
イベントガイド

「南アルプス国立公園指定50周年記念イベントガイド」

掲載内容は、記念事業、関連イベント、南アルプス国立公園マップ、エコパーク・ジオパークの取組紹介、各県市町村の観光情報、スタンプラリーなど、事業全体の啓発パンフレットとして作成しました（Ａ４版 16 ページ両面カラー中綴じ 20,000 部）。

３県開催イベントのリーフレット

ポスターの掲示



シンボルマーク募集のチラシ

缶バッチ

パネルによる広報活動

「3県開催イベント毎のリーフレット」など

長野県での記念式典、静岡県でのこどもフォーラム、山梨県でのクロージングイベントについて、各事業の広報リーフレットを開催前に作成・配布しました（A４版両面カラー10,000枚×３イベント）。また、その他、関連事業とも連携し、必要に応じてチラシや新聞広告等による広報を実施しました。

「南アルプス（50周年記念事業）のPRポスター」

50周年の年以降もそのまま南アルプスの魅力について広くＰＲ出来るようにした内容のポスターを作成しました（A１版　1,500枚）。

「南アルプス国立公園シンボルマーク募集のポスター・チラシ」

公募に際して、ポスター（A２版　200枚）・チラシ（A４版両面カラー3,000枚）を制作しました。。

記念缶バッチ

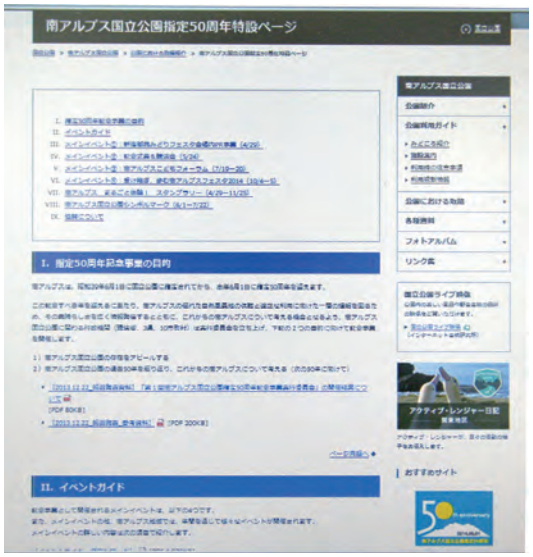
指定50周年記念ロゴを使用した記念缶バッチを作成（直径32mm、3,000個）。南アルプスの関係者（実行委員その他行政関係者、山小屋等施設関係者、交通機関関係者など）が身に付けて、南アルプス全体のイベントであることをＰＲしました。

また、記念事業で制定した南アルプス国立公園シンボルマークを使用した記念缶バッチを作成（直径32mm、1,000個）。会場で配布を行った他、今後の普及啓発に活用していきます。

南アルプス国立公園パネル

各イベント会場で普及啓発のため、A１サイズの解説パネ

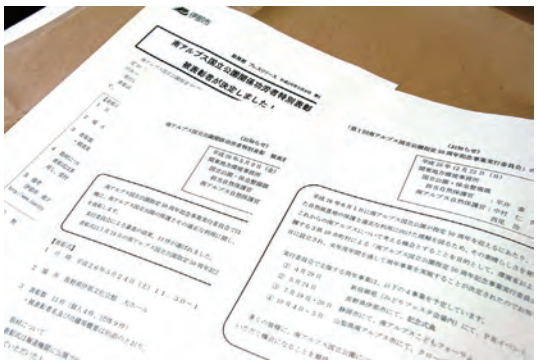
ル「南アルプス国立公園のあゆみ」２枚組、「南アルプスプロフィール」、「南アルプスを楽しむ」２枚組、「南アルプスマップ」の計６枚、そしてＡ１サイズの写真パネル「南アルプス全景」、Ａ２サイズの写真パネル「初夏の北岳から間ノ岳」、「ハクサンイチゲとライチョウ」、「三峰岳から野呂川源流部と仙丈ヶ岳」、「紅葉の広河原と北岳」、「荒川岳のお花畑と赤石岳」を加えた総計１２枚のパネルを作成しました。各イベント会場で掲出した他、今後は野呂川広河原インフォメーションセンターなど関連施設で掲出するなどの活用をしていきます。



特設ホームページ

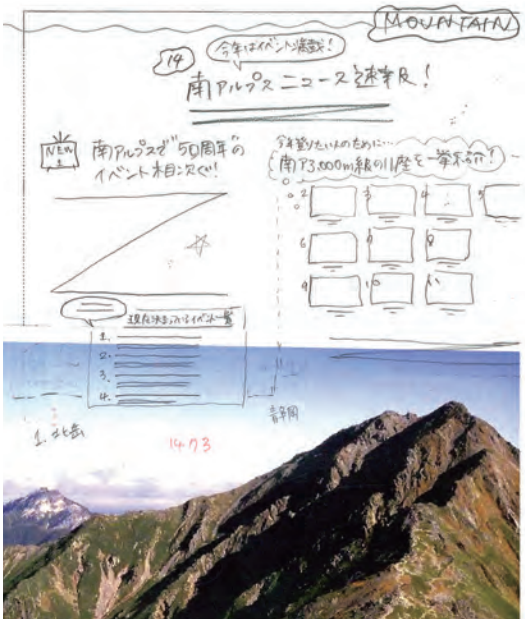
関係団体ホームページ・広報誌

環境省の南アルプス国立公園のホームページ内に指定50周年記念事業の特設ページを設けて常時の情報提供を行ったほか、関係団体（環境省・県・市・町・村、企業等）のホームページでの各個の紹介や記者発表資料の掲載、広報誌への掲載を実施しました。


記者発表資料

山岳雑誌・新聞・フリーペーパー

実行委員会による記者発表資料「「第１回南アルプス国立公園指定50周年記念事業実行委員会」の開催結果について」、「南アルプス国立公園関係功労者特別表彰　被表彰者が決定しました！」、「南アルプス国立公園シンボルマークが決定しました！」などの作成と関係機関各位から新聞社等への投げ込みの他、山岳雑誌「山と渓谷」、「ＰＥＡＫＳ（ピークス）」などへの情報提供・掲載依頼による広報を実施しました。



PEAKS“掲載調整のラフ

国土地理院、測量法変更で、間ノ岳の標高が日本3位タイに

標高測量法の改定により、「日本の主な山岳標高」（1003座／国土地理院）のうち、87座の山の標高が変更された。

かつては、山頂付近の三角点をもとに標高を割り出していたが、今回、人工衛星を使用した、より正確な計測が行なわれたことで見直しと変更に至ったようだ。

その結果、南アルプス白峰三山の1つ、間ノ岳の標高は3189mより1m高くなり、これまで北アルプスの奥穂高岳（3190m）に次いで国内第4位だったものが、3位タイに並んだことになる。

間ノ岳が第3位。山梨県は富士山、北岳と合わせ上位3座を有することに

人が増えれば事故も増える 南アルプスの遭難者数過去最多

山梨県警察によると、山梨県内で昨年（2013年）1年間に発生した山岳遭難事故は、前年（2012年）と比較して30件増の113件に及んだとのこと。

これは、統計を開始した1965年以降で最多だとして、登山者に注意を呼びかけている。遭難者のうち、全体の約30%を占める37人が単独行者で、県内のエリア別に見ても、南アルプス山系での遭難が富士山より多い40件と、過去最多だとういう。

登山届は、県警のウェブサイトでも提出できる。積極的に活用を

1

3

2

1 新冬の塩見岳。周辺は、豊かな水質を守ってきたエリアだ 2 独特な花弁が印象的な高山植物のタカネナデシコ 3 南アルプス一帯は、世界のライチョウ生息地の南限にあたる

南アルプスがユネスコエコパークに登録。世界遺産への、足がかりとなるか

南アルプスが、2014年6月11日（日本時間6月12日未明）スウェーデンで開催されたMAB（人間と生物圏）国際調整理事会でユネスコエコパークとして登録承認された。

ユネスコエコパークとは、「自然の保全とその利用の調和」がなされている地域を、ユネスコ（国連教育科学文化機関）が世界自然遺産とは異なった観点から評価し、認定するもの。

日本国内では、今回認定地となった南アルプスと福島県只見地域を含む7ヶ所が認定を受けている。

南アルプス市市長の中込博文氏は、「南アルプスの豊かな自然環境と、それを守り、共生してきた地域の歴史・文化が世界に認められたものだが、これはスタート地点です」とし、環境の保全と持続可能な利用を今後も推し進めていくという。

温故知新 南アルプス

SOUTHERN ALPS JOURNAL

南アルプスの最新情報をお届け

編集部＝構成・文
岡野隆之、酒田哲三＝写真

南アルプス国立公園指定50周年。課題山積でも、前向きな姿勢

2014年6月1日、山梨、長野、静岡の3県10市町村にまたがる南アルプス国立公園が、指定から50周年を迎えた。

1964年に国立公園指定されて以降、公園内トイレのし尿処理や、マイカー規制をはじめとし、いくつものルールが設けられ、その環境保全に力が入れられてきた。同時に、山麓から登山口へは、道路網の拡充が進められ、この50年で南アルプスを訪れる登山者の数は激増。それに伴い、高山植物の盗掘も横発した。シカによる食害も追い打ちをかけ、実際に絶滅の危機にひんしている南アルプスの固有種も少なくない。

今後の課題としては、引き続きの環境保全と、リニア中央新幹線の公園内通過が挙げられる。

長野県伊那市市長の白鳥孝氏は、「南アルプスを日本の貴重な財産と認識し、自然保護、安全登山への理解を深めた上でこの財産を守っていきたい」と語っている。

中央から、南ア北沢峠を望む。雄大なこの山容が、南アルプスの魅力だ

山と溪谷８月号“50 周年記事

麓の自治体の活動も盛ん

南アルプスお膝元の各自治体では、自然環境の保護や、南アルプスの魅力を知ってもらおうと関連事業や広報活動を盛んに行なっている。ここでは、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、塩見岳など、広範囲にわたって南アルプスに接している、長野県伊那市の活動を紹介。

伊那市だけではなく、その他の自治体も、「南アルプスを世界自然遺産に」と、一丸になっている。8月28日には、「山サミット」と称して10市町村の理事者らによる懇談会が、北沢峠下の大平山荘にて開催された。こうした活動はより活発になっていくだろう。

クリーンアップキャンペーン

実施場所：南アルプス北部「北沢峠」周辺
期間：7月中旬～10月下旬

登山道のゴミ拾い、侵化植物（外来種）の抜き取り、携帯トイレの普及啓発、ストックキャップの使用時発など。南アルプスで最もにぎわう登山口だからこそ、人間の影響で自然環境が変化しやすいことをアピール。また、環境保護の啓発をすることで、より多くの登山者に南アルプスの豊かな自然環境について知ってもらおうというのがねらい。

日本ジオパーク 南アルプス大会

実施場所：長野県伊那文化会館、いなっせ、創造館ほか
期間：9月27日～30日

いまだに進山活動が活発な南アルプス周辺は、地層や地質活動をその目で見ることができる貴重なポイントが多く、それらを保護し、学習やジオツーリズムに活用する「ジオパーク」に認定されている。毎年1回行なわれている、国内各地に点在するジオパークの全国大会が、今年は南アルプス（伊那市）で開催。大会テーマは「山岳と人とジオパーク」。大会シンポジウムの基調講演は、ノンフィクション作家で探検家の角幡唯介さん。トークセッションにはイラストレーターの鈴木みきさんが出演予定。他にも公式ジオツアー、登山ツアー全国されている。
詳細：minamialps-m9-geo.jp

南アルプス国立公園50周年記念写真展「竹澤長衛さんが愛した南アルプス」

実施場所：長谷アルプスフォトギャラリー
期間：～9月30日

山岳写真家竹澤長衛氏が、南アルプスを独自の視線で捉えた作品の数々を展示。小林氏『花の風景』も同時開催される。

＊伊那市の南アルプス関連イベントのお問い合わせは
伊那市役所 世界自然遺産登録推進室（生活環境課）☎0265-78-4111

南アルプスに入山料の導入を検討

南アルプスを行政区域にもつ山梨県、長野県、静岡県の各自治体の首長により、現在「南アルプス入山料」が検討されている。

3県10市町村で組織された「南アルプス世界自然遺産登録推進協議会」によって話し合われているこの議案。現在は地元自治体が負担している登山道や林道の整備費用の一部を、将来的には登山者にも負担してもらいたいという考えだ。

北岳への登山口、広河原に向かう林道の入り口では、現在マイカー規制を実施し、通行者から協力金として100円（小学生以下は50円）を徴収しており、規制にかかる経費に充てている。

具体的な金額や徴収方法といったことをすべて含めて、現在検討中とのことだ。

南アルプス南部では、畑薙第一ダム～二軒小屋がマイカー規制の対象。ただし通行者が協力金を徴収されるのは、現状山梨県内のみだ

高山植物を守れ！ シカ完全包囲網

南アルプス全域で、増えすぎたニホンジカによる高山植物の食害が深刻だ。

ニホンオオカミの絶滅、ハンターの減少、温暖化による積雪量の減少が影響していると考えられ、環境省も頭を悩ませている。南アルプス（北岳）の固有種であるキタダケソウの自生地でもシカのフンが確認され、大樺沢お保や笠川前岳カールなどに防鹿柵を設け、希少な高山植物の食害を食い止めようと各地で対策がとられている。また、2013年9月に仙丈ヶ岳北東の小仙丈カールで試験的に実施された「銃器によるシカ捕獲（環境省主導）」が、一定の成果を収めたということで、今夏も捕獲は実施される予定だという。事前の告知と当日の注意喚起は昨年同様充分に行なわれるとのこと。

南アルプスエリアの防鹿柵

北沢峠周辺	塩見岳（山頂直下）
仙丈ヶ岳（両ノ曽周辺）	笠川岳（笠川前岳カール）
北岳（二俣周辺）	聖平周辺
三伏峠周辺	茶臼岳（茶臼小屋周辺）

昨年の柵設置区域。今回も同じ場所かはまだ未定で、詳細は随時公開
www.env.go.jp/park/minamialps

温故知新 南アルプス

南アルプスの稜線にクマ出没!?

写真は、2013年の夏に、南アルプス南部の稜線上にある山小屋で撮影されたツキノワグマ。望遠レンズを使用して撮影したわけではなく、当時の小屋関係者がたまたま持っていたコンパクトデジタルカメラで撮ったもの。本来臆病なツキノワグマがこれほど人間に近づくこともめずらしいそうだ。

小屋関係者によると、南アルプス南部ではここ数年でクマを見かける頻度が上がったとのこと。山小屋の生ゴミ処理機をあさっていたため、一番を餌場と認識してしまわないか、周囲の山小屋への影響も懸念されている。

山でクマに遭遇したら、急に大きな声を出したりせず、後ずさりでその場を離れること。近くに小屋があれば、逃わすそこへ

事業実施報告

関連事業、プレイベント

環境省及び3県10市町村が実行委員会による記念事業とは別途開催する南アルプス関連の開山祭等の既存事業や新規事業、イベント等に南アルプス国立公園指定50周年の冠をつけることで関連事業と位置づけました。イベントガイドで紹介してきた夏山開き5件、関連イベント114件（メインイベントを含む）の他、実行委員会設立以前からのプレイベントも実施されました。

南アルプス市では、第28回国民文化祭が2013年に山梨県で開催されたことにあわせて、同年の8月に南アルプス山岳フェスティバルを開催し、南アルプス国立公園指定50周年式典や山岳に関するシンポジウムなどを開催しました。

また、自然公園専門誌「國立公園」（出版　一般財団法人自然公園財団）の2014年5月号No.723（テーマ：森を楽しむ）において「南アルプス国立公園野呂川流域の森林と人（元山梨県林務部技監　齊藤敬文）」、「指定五〇周年を迎える南アルプス国立公園（関東地方環境事務所）」、「わがまちの自然公園　静岡市（静岡市長　田辺信宏）」、「レンジャー便り　南アルプスでつながる地域を目指して（南アルプス自然保護官　中村仁）」と南アルプスに関する4記事が集中して掲載された他、2014年12月号No.729の環境省ニュースでは、南アルプス国立公園シンボルマークの決定について報告を行いました。

雑誌「國立公園」2014年5月号No.723

2014年12月号No.729(自然公園財団)

山岳フェスティバル　パネルディスカッション

南アルプス自然保護官による国立公園の歴史と特徴の説明

広河原開山祭

長衛祭

第28回国民文化祭･やまなし2013 南アルプス山岳フェスティバル

南アルプス市

南アルプス山岳フェスティバルでは、南アルプスの魅力を多くの人に知っていただくよう「知ろう！歩こう！輝く南アルプス」をテーマに、平成25年8月3日（土）～5日（月）の3日間、山岳文化啓発事業及び登山事業を開催し、全国に発信しました。

平成26年6月に南アルプス国立公園が指定50周年を迎えることを記念し、環境省自然環境局長の星野一昭氏や国立公園関係市町村の首長をお招きし、「南アルプス国立公園指定50周年記念式典」を行ないました。また、古美術鑑定家の中島誠之助氏に「山が家族を育ててくれた～南アルプスいい仕事してますね～」を演題にご講演をいただきました。さらに中島誠之助氏、山岳写真家の白籏史朗氏、星野一昭氏、元財団法人国立公園協会理事長の瀬田信哉氏、中込博文南アルプス市長をパネリストに芦安ファンクラブ会長花岡利幸氏をコーディネーターに、シンポジウムを開催いたしました。

登山事業としては、「仙丈ヶ岳登山」、「栗沢山トレッキング」、「櫛形山森林ウォッチング」を開催し、総勢200名に迫る多くの参加者が山岳ガイドと一緒に南アルプスの大自然を満喫しました。

本事業を通じて、南アルプスの山々の偉大さを再認識することができました。今後も南アルプス山岳文化の継承と豊かな自然の保護が推進されることを期待しています。

外来植物ビロードモウズイカの除去作業

南アルプス市

日　　程：2014年7月27日（日）8：30～10：30
作業場所：南アルプス市芦安地区日入倉橋周辺
実施主体：芦安かたくりの会、NPO法人芦安ファンクラブ、千野建材、井上住建、
　　南アルプス自然保護官事務所、南アルプス市

南アルプス登山の玄関口に位置する南アルプス市芦安地区では数年前から、みだい御勅使川河川の日びりくら入倉ばし橋付近で、ビロードモウズイカが道路沿いや河川敷で繁殖が拡がっていることが確認されていました。

ビロードモウズイカは、環境省が指定する特定外来生物ではありませんが、南アルプスの希少種を保全するために、侵入を防止する措置が必要です。

7月27日（日）、植物の結実前に南アルプス登山の入り口である芦安地区の水際での外来植物の侵入を防ぐため、芦安地区の住民有志を中心に市役所職員、南アルプス自然保護官事務所や近くに作業場を持つ事業者ら、ボランティア総勢50余名による除去作業が行なわれました。地表面から刈り取ったり、抜き取ったりしたビロードモウズイカは、種子をこぼさないように丈を短くして丁寧にビニール袋に入れ、1トントラック5台程度が除去されました。帰化植物の除去作業は、ユネスコエコパークとして、南アルプスの自然を保全するために、人や地域が関わって進める活動の第一歩として、これからも続けて行きたいと考えています。

長衛祭・南アルプス国立公園指定 50 周年記念 10 市町村懇話会

伊那市

開催日時：平成 26 年 6 月 28 日（土）14:30 ～ 16:00
場　　所：大平山荘　（南アルプス林道沿い）

出 席 者：長野県：白鳥市長、飯田市長、富士見町長、大鹿村長
山梨県：南アルプス市長、韮崎市副市長、北杜市産業観光部次長
静岡県：静岡市副市長、川根本町副町長
環境省：関東地方環境事務所長

南アルプス国立公園指定 50 周年を記念し、南アルプスに関わる 3 県の 10 市町村の首長らが大平山荘に集い、南アルプスの今後の 50 周年について話し合う懇話会を開催しました。懇話会は伊那市の白鳥市長からの声がけで実現。南アルプスの開拓者「竹澤長衛」翁を偲ぶ第 56 回長衛祭にあわせて行いました。

懇話会では、山岳観光、自然保護、登山道整備などについての意見を交換し、10 市町村が協力して解決していくべき課題を共有しました。

南アルプスのシンボルに 記念モニュメント除幕式、記念講演会

北杜市

北杜市では、南アルプス国立公園の指定 50 周年、南アルプスユネスコエコパーク登録、市制施行 10 周年を記念して、道の駅はくしゅうに記念モニュメントを作成し、10月 26日に除幕式を行いました。

同日に、長坂コミュニティ・ステーションで「～はるかなる山々への想い～」と題して、アルピニスト野口健さんの記念講演会を行いました。野口さんは、初登頂が八ヶ岳で、一番多く登っている山であること、エベレスト登頂の体験談や富士山の環境美化活動についてお話しくださいました。

これを機会に、北杜市の持つ貴重な資源を市内外にＰＲし、併せて観光地としての魅力向上を図りながら、優れた自然環境の保護と適正な利用を呼び掛けていきます。

南アルプスのモニュメント

北杜市の「大地（緑）」と「空（太陽）」それらをつなぐ「水」をイメージし、南アルプスのダイナミックでリズミカルな山並みを連想させます。

芦安山岳館企画展「南アルプスでまたあした」

南アルプス市

ポスター

企画展オープニング“塩沢館長挨拶”.

山梨、長野、静岡の３県にまたがり、日本第二位の標高を誇る北岳（3193m）をはじめとする 3000m 級の高峰を 13 座も抱えるこの山岳公園は、昭和 39 年 6 月 1 日に国立公園として指定されてから、50 年という節目の年を迎えました。

年間 2000㎜を超える雨が降りそそぐ南アルプス。亜熱帯気候の沖縄に匹敵するほどの豊かな雨は、多様な森を形づくり、深い谷を削り出してきました。そこには、厳しい自然環境の中で脈々と受け継がれてきた動植物たちの貴重ないのちと、その恵みを享受してきた私たち人間の歴史とが存在しています。

本企画展では、この 50 年の南アルプス国立公園のあゆみをふりかえるとともに、今と未来を生きるすべての人に、この大きな自然を自分の身近な存在としてとらえていただきたいと考えました。南アルプス国立公園が、これからも豊かな命を育み、多くの人を魅了する場所であり続けられるよう、皆さまとともに南アルプスの“あした”を見つめていきたいと思い、本企画展を開催いたしました。

事業実施報告

協賛について

南アルプス国立公園指定 50 周年記念事業を実施するにあたり、その趣旨に賛同する法人・地方公共団体等の各種団体・個人等による企画・運営・広報等への協力、資金・物品の提供などの協賛事業については、「南アルプス国立公園指定 50 周年記念事業協賛要領」に定めた事項に沿って取り扱ってきました。その結果、次の通り、多くの団体より多大な協賛をいただきました。

なお、記念事業全体に協賛いただきましたサントリー食品インターナショナル株式会社と株式会社　山と溪谷社からは南アルプスに関する取組について寄稿いただきましたので、あわせてご紹介します。

南アルプス指定 50 周年記念事業全体への協賛企業

・サントリー食品インターナショナル株式会社
・株式会社　山と溪谷社

長野県イベントへの協賛企業

・伊那食品工業株式会社
・伸和コントロールズ株式会社
・ルビコン株式会社
・ＫＯＡ株式会社
・サン工業株式会社
・伊那市建設業組合
・トップツアー株式会社　伊那支店
・北海道地図株式会社
・伊那ケーブルテレビジョン株式会社
・株式会社　BISO
・上伊那農業協同組合
・三峰川電力株式会社
・株式会社 千秋社
・株式会社 ニシザワ
・コニカミノルタプラネタリウム株式会社
・国立大学法人　和歌山大学
・アルプス中央信用金庫
・アウトドアショップＫ
・有限会社　いすゞ
・株式会社　プラーナゼロ磁場
・ハナマルキ株式会社　伊那工場
・株式会社 フォレストコーポレーション
・有限会社　文正堂
・株式会社　総合サービス
・株式会社　水野組
・エフ・ケー建設株式会社
・株式会社 ヤマウラ　伊那支店
・株式会社　ディーエルディー
・旅館　花鳥屋
・GAST JAPAN 株式会社
・有限会社　エビスホテル
・株式会社　古今書院
・伊那パークホテル
・伊那市観光株式会社
・アド・コマーシャル株式会社
・大塚オーミ陶業株式会社
・伊那バス株式会社
・宮坂醸造株式会社
・株式会社　仙醸
・合資会社　宮島酒店
・漆戸醸造株式会社
・大國酒造株式会社
・喜久水酒造株式会社
・南信州ビール株式会社
・株式会社 八十二銀行伊那支店

山梨県イベント「受け継ぎ、歩む南アルプスフェスタ 2014」への協賛団体・企業

・南アルプス世界自然遺産登録山梨県連絡協議会
・山梨交通株式会社
・日本高山植物保護協会

山と溪谷社の取り組みについて

北沢峠で開催した「マナー＆クリーンアップチャレンジ」

山と溪谷社では、2013 年に南アルプス国立公園指定 50 周年プレイベントとして、長野県伊那市、山梨県南アルプス市のご協力をもとに、「ヤマケイオンライン南アルプスプロジェクト」を展開しました。これはサントリー酒類株式会社を協賛社として、ウェブサイト「ヤマケイオンライン」に南アルプスの情報を集約して、特にシカ問題に注目したコンテンツを発信しました。それにあわせて、登山系イラストレーター—の鈴木みきさんと情報発信力の強い登山ブロガー約 10 名を招待して、仙丈岳のシカ対策の現状を視察し、各種サイトでリアルな南アルプスの現状を紹介しました。また、写真投稿企画と連動して、1 投稿あたり 100 円を自治体に寄付するキャンペーンも展開し、伊那市、南アルプス市の 2 市に山岳環境保全を目的とした計 50 万円の寄付をしました。合わせて弊社が運営する「日本山岳遺産基金」が毎年各地の山で開催している「マナー＆クリーンアップチャレンジ」を南アルプスで開催。2013 年はプレイベントとして伊那市北沢峠と南アルプス市芦安の 2 箇所、2014 年は北沢峠で、ともに 8 月上旬に開催し、登山者にマナーの向上を呼びかけました。

また、2014 年には月刊『山と溪谷』 8 月号の特集「南アルプス温故知新」の中で、50 周年の記念にふさわしい南アルプスの歴史や今の課題、50 周年事業についてとりあげ、記念の年を盛り上げました。

今後も、南アルプス国立公園だけでなく、すべての山岳エリアにおいて、登山業界のリーディングメディアとして「山岳環境保全」や「安全登山」を推進して参ります。　（山と溪谷社・神谷有二）

南アルプスを特集した
『山と溪谷』2014 年 8 月号

COLUMN

国土地理院、標高を改定。間ノ岳が日本第３位に！

国土地理院は平成 26 年 4 月 1 日に、全国の主な山 1,003 山の高さを記載する「日本の山岳標高一覧 1003 山」の内の 87 の山の標高を改定しました。この中には、これまで全国 4 番目の高さだった南アルプスの間ノ岳（山梨県、静岡県）が含まれ、今回の改定で 3,190m と奥穂高岳（長野県、岐阜県）と並ぶ 3 位に並びました。

これにより、仙丈ヶ岳で撮る写真に、富士山（1 位）、北岳（2 位）、間ノ岳（3 位）を収めるという楽しみ方も可能になりました。

富士山と北岳と間ノ岳

サントリーの取り組みについて

弊社では北杜市白州にて「サントリー天然水南アルプス白州工場」を展開しており、弊社のコーポレートメッセージである「水と生きる」を実現すべく、周辺の豊かな自然環境に配慮した生産活動を行っています。

例えば一部の水工場の屋根には最大493kW を発電可能とする太陽光発電パネルを設置、晴天時には工場で使用する電力の約20% を発電すると共に、その太陽光発電を活用した電気バスを見学者の場内移動用に民間企業では初めて導入しました。

また石油と比較して窒素酸化物・硫黄酸化物の少ない LNG の使用や PET 容器を作る際の圧縮空気も回収・再利用する日本初の技術の導入等で生産活動における CO2 排出量の徹底的な削減に取り組んでいます。同時に貴重な水を大切に使用する取り組みも実施、水を用途に応じて段階的に使う「カスケード利用方式」を導入、製品の 1.5 倍の水があれば包材や設備の洗浄も含めた全ての用途をまかなう事が出来るようになりました。

これからも「サントリー天然水南アルプス白州工場」では更に環境と調和した生産活動の実現に向けて取り組みを続けていきます。
(サントリー食品インターナショナル株式会社)

COLUMN

南アルプスの天然水

今回南アルプス国立公園 50 周年事業に提供させていただいた弊社の「サントリー南アルプスの天然水」は 1991 年発売、南アルプスの雄大な自然に育まれたすっきりとキレのいい味わいと徹底した品質へのこだわりがお客様の支持を集め日本を代表するミネラルウォーターブランドとなりました。容器面では環境にも配慮しボトルの軽量化や植物由来原料の採用、ラベルの薄肉化等による CO2 排出量の削減を積極的に進めています。2013 年には爽快な刺激が心地よい炭酸水「南アルプスの天然水スパークリング」「南アルプスの天然水スパークリングレモン」、2014 年には本物の果実を使ったフレーバーウォーター「南アルプスの天然水＆朝摘みオレンジ」を発売し製品レパートリーも拡大、いずれの商品もお客様の高い評価をいただいています。これからも弊社では「南アルプスの天然水」シリーズを通じて南アルプスの魅力をひとりでも多くのお客様に伝えていきます。